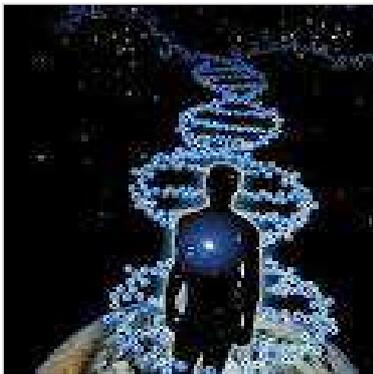




「はり」という名の遺伝子



新年明けましておめでとうございます。さて、唐突ですが“Acupuncture”（鍼）という名の遺伝子があることをご存知ですか？近年、鍼に関する研究が進み、治効メカニズムなど色々なことが分かってきました。こうした中、鍼によって「遺伝子のスイッチがONになる」という画期的な研究をしている科学者がいます。ギランバレー症候群という全身の筋肉が萎縮してしまう病気の患者さんに鍼治療を行ったところ筋肉の増大がみられ、遺伝子解析の結果、鍼通電によりスイッチONとなった遺伝子が見つかったのです。そして、その遺伝子の



一つを“Acupuncture”と名付けました。筋肉が運動などによって壊れると、筋の中にあるサテライトセルという細胞の増殖のスイッチがONとなり、壊れた箇所を修復して筋が肥大します。つまり、鍼で筋肉を刺激するとサテライトセルが反応して増殖し、筋の肥大や修復が起こると考えられるのです。現代医学は今や遺伝子の時代。鍼の研究も遺伝子レベルで「何が起こったか」を証明できれば、エビデンス（科学的根拠）として示すことができます。今後の研究の進展を大いに期待したいと思います。

文・杉山誠一

◇ご挨拶◇

新年、あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ致します。ご来所くださる皆さまの健康維持・増進のため、スタッフ一同 全力で施術にあたらせていただきます。

スタッフ一同



◇1月の休診◇

28日～1月4日（冬季休暇）
8日
9日（成人式）
15日、22日、29日

杉山 誠一（すぎやま せいいち）

出身地：静岡県
東海医療学園専門学校 学校長
鍼、灸、あん摩・マッサージ指圧師
温泉入浴指導員

